
Magic Light

雪斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

M a g i c L i g h t

【Nコード】

N 1 4 7 0 A

【作者名】

雪斗

【あらすじ】

一人の少年が一冊の本を原因に魔法と関わっていきます。親父との再会などを経て仲間と成長していくファンタジーです。

プロローグ

「魔歴2000年、闇の彼方に導かれた黒の存在蘇り、破滅の道を歩むだろう。その時、白の存在現れ、平和の道を歩むだろう。」

『魔法界 デイデロ予言書 第2部5章』より

第1部 魔法界 人間界 1章

風が澄み渡り、季節は秋から冬に移り変わる頃、落ち葉でいっぱい
の学校の中庭で一人の男と女がいた。

「あの、コウ君、私、前からコウ君の事好きでした。良かったら私
と付き合ってください！」

コウと呼ばれた少年は晴れ渡った空を見ながら言った。

「・・・ごめん。俺、まだ誰とも付き合わないんだ。あ、用事ある
から行くわ。」

ここはラインピースという国の南西に位置する田舎町ルイス。
この町の学校に一人の男がいた。その名もコウ＝ライト。

今も一人の女を振り、これで合計10人目だ。

コウは学校では女生徒のアイドル的存在の位置に属していた。

「おい、コウ。あの子どんな話してたんだ？」

コウが教室に戻るといつも通りトシが話し掛けてきた。

「ああ、あの子ね。いつも通り告白の話して振っちゃった。」

「まじかよ！かわいかったのになあ。」

「いいの。それよりトシは誰かいないのか？」

「俺はいいよ。今は学校生活を楽しむのが一番だ。」

トシはコウの一番の親友でいつも二人でつるんでいた。「そうだ、
コウ。実はいい物が手に入ったんだ。今日、コウの家に持って行く
よ。」

「いい物って何だよ？気になるなあ。教えてくれよ。」

「あとで持つて行くから楽しみに待ってなさい！そろそろあいつが
来る頃だな。」

トシが噂をしていると活発な女がコウ目掛けて走って来た。

「おい、コウー！」

叫びながらやって来たのは、コウの幼なじみのリンダだ。

コウとトシとリンダは幼なじみで小さい頃からいつも一緒にいた。

リンダは学校のマドンナ的存在で男生徒からは高嶺の花として見られているが、性格は自己中心だ。

それを知っているのは幼なじみの二人だけだった。普段はお姫様風に振る舞っている。

ついでにトシの紹介をしておこう。

トシは明るく誰からも慕われている存在だ。

学校では裏番長的な存在で切れると手がつけなくなってしまう。しかし普段は優しいのだ。「ああ、トシもいたんだ。まあ、いいわ。ところでコウ、どこ行ってたのよ？私、探したんだからね。この私を心配させないでよね。」

「どうしてリンダが俺を心配するんだ？」

「え、だって・・・まあ、なんとなくだよ！」

リンダの反応によくわからないコウとそのやりとりを見て苦笑しているトシがいた。

これが日常の風景だった。

第1部 魔法界 人間界 1章（後書き）

初めての小説執筆ですが、楽しく書いて行くので、最後まで読んでください！

感想もらえるとかなり嬉しいです！

第1部 2章

『キン、コン、カン、コン』

学校の授業が終わり、放課後がやってきた。

生徒達が帰宅している中で一際目立つペアがいた。

コウとリンダだ。

二人は毎日と言っていいほど一緒に帰っていた。

その光景は、誰から見ても羨まれるベストカップルに見える。

すれ違う人のほとんどが二人を見ていた。

二人は馴れていたもので、もう気にはしていなかった。

「ねえ、コウ。今日暇？」

「今日はトシと遊ぶ約束してるから、暇じゃないな。」

「そうかあ、それじゃ仕方ないか……。じゃあまた明日ね。」

そのまま寂しそうにリンダは帰っていった。

コウが自宅に着くと玄関の前でトシが待っていた。

「よう！遅かったな。」

「お前が早いんだよ。まあ、中に入れよ。」

そして二人は雑談をしながら部屋に入った。

「まだ、お前達付き合ってるのか？」

「付き合うつて俺とリンダか？何言ってるんだよ。あいつは幼なじみだぜ。」

「はあ。まだ付き合ってるのか。」

トシは呆れた風に呟いた。

「リンダはまだ言っていないのか……。コウは恋愛方面は疎いからな・・。」

「ん？何か言ったかトシ？」

「いや、今日も疲れたなーて呟いただけだよ。」

トシは笑いながらこまかした。

「今日も疲れたよな。ところで、今日言っていたいい物ってなんだ？」

コウが聞くと不敵な笑みを浮かべてトシは手に持っていた一冊の本をコウに渡した。

それは本というより辞典みたいな厚さで、表紙には見たことの無い文字が書いていた。

「・・・なんだコレ？」

「ふふふ、聞いて驚け。この本は親父の部屋から見つけてきた『魔法の書』なんだ。」

トシの親父は冒険家だ。

家に居るよりも旅をしている時期が長く、今もどこかに行って帰ってきていなかった。

「魔法つてよくゲームの中に出てくるやつだよな？」

「ああ、多分ね。でも、見たことの無い文字で書いてあるから全然読めないんだよな。」

「読めないのにどうして『魔法の書』ってわかるんだ？」

トシは考えながら答えた。

「それは長年の俺の勘さ！」

コウは呆れながら話しを続けた。

「・・・勘でも癌でもいいから、そんな物持って来てどうするんだよ。」

「俺、いらなからお前にやるよ。」

「読めない本はいらないぜ。」

「まあまあ、いいからいいから。机に置いとくからな。」

そしてトシは机の上に本を投げ捨てた。

「さてと、用件も済んだ事だし、今日は他にやることあるから帰るわ。」

トシはそのまま満足顔で帰っていった。

「あいつはこの本を処分するために来ただけか！」

そして1日の終わりを示す夜がやって来た。

第1部 2章（後書き）

小説を書き初めてすぐなのに、感想もらって、嬉しがってる雪斗です！

色々と指摘もされたので、その辺を少しづつ変えて行きますので、これから期待しててください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1470a/>

Magic Light

2010年11月25日18時04分発行